

## 2025（令和7）年度豊橋創造大学短期大学部 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

### ■幼児教育・保育科

外部評価者：社会福祉法人 幼保連携型認定こども園 明照保育園 理事長

| 外部評価における意見・提言等  | 外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等  |
|---|---|
| (1)入学者の受け入れについて<br><br>評価：適切である<br><br>大学の方針に基づき適切に実施されている。地域の高等学校での模擬授業等により、本学での学びに対するイメージが高まっていると思われる。                      | 高大連携事業や体験授業などを通して、本学での学びに対するイメージは高まっていると評価して頂いている。しかし、少子化や保育人気の低迷による学生数の確保という問題には、様々な角度から更なる工夫が必要と考えている。                              |
| (2)カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について<br><br>評価：適切である<br><br>毎年度実施される授業評価アンケートによって、学生からの意見も取り入れながら、カリキュラム及び授業内容もさらなる改善が図られていると思われる。 | 学園構想の中長期計画（アクションプラン）に基づき、基礎教養科目の充実と短大部共通開講科目の充実を図ってきた。昨今は多様な学生への指導法・支援についても検討してきたが、今後も、学生からの意見や外部評価を踏まえ、都度、協議を重ね、より良い教育となるよう改善していきたい。 |
| (3)本学の教育活動全般について<br><br>評価：適切である<br><br>豊橋市と連携を図り、学内に子育て支援事業の一環の「つどいの広場」を設置し、学生にとっても学内で子どもと触れ合える機会が多く持て、保育実践に貢献できている。         | 現在の学生は、生活の中で子どもと関わる機会や親子の様子を見られる機会が少ないため、地域連携や子ども関連施設との協働は、貴重な体験の機会と位置付けている。今後も、様々な連携を通して、学生の学ぶ機会や活躍できる機会を増やしていきたい。                   |
| (4)その他<br><br>評価：適切である<br><br>セミナー等で、市内の園やまちなか図書館等に出かけ、学生の保育実践を積極的に持つと同時に、市民への知名度も上がっていると思われる。                                | 学生が地域の園や子ども関連施設等で活動することは、学生自身にとって豊かな体験となって学びを深めるだけでなく、地域貢献につながる。これは地域に根差した養成校としての意義であると考えており、今後も、学生が成長し、地域貢献ができる機会を提供していきたい。          |

## 2025（令和7）年度豊橋創造大学 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

### ■キャリアプランニング科

外部評価者：豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター長

| 外部評価における意見・提言等   | 外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等   |
|--|--|
| (1)入学者の受け入れについて 評価：適切である<br><br>入学者の受け入れについて短期大学部において、85 %を超える学生が東三河 5 市を中心とした愛知県出身者である。今後も、さらに卒業生の活躍実績（特に地元企業との密着性など）を露出させる、また実践的なプログラム（例；食育、医療事務体験など）を開催し、地域一体となった入学者へのアプローチができるとよい。 | 地域総合科学科としての目指すべき方向性をご指摘頂いている。地域性を活かした教育及びその成果は重要な差別化要因であり、公務員（事務職）や病院事務職への就職実績は、本科の強みでもある。インターンや様々な連携のプログラムを地元産業界と構築する一方で、募集活動に上手く取り込めるような仕組みを築いていきたいと考えている。                               |
| (2)カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について<br>評価：適切である<br><br>ポリシーにあるとおり、社会人基礎力や勤労観などに重きをおき、実務能力の習得や地元企業とのインターンシップによる連携強化を図っている。またボランティア演習や手話入門なども新設されており、今後、さらに地元企業との連携や地域プロジェクトへの参画に期待したい。      | カリキュラムについては、一定の評価を頂けている。例年、地元企業との連携や地域プロジェクトへの参画を期待されており、最近では、卒業生の就職先企業にキャリア関連授業でのゲスト・スピーカーを依頼している。このように接点を持つことで、双方のニーズを直接測ることは有意義な取り組みであると実感している。このような協力関係を活かし、カリキュラムや教育手法の開発に取りくんでいきたい。  |
| (3)本学の教育活動全般について 評価：適切である<br><br>少子化の中で、短期大学の差別化が難しい中、勤労観、就業を意識し、地元企業や地域社会に役立つ実践的な教育をポリシーに掲げながら活動を行っている。今後も、さらに地元企業と地域産業の発展・振興につながる地元密着型の大学としての活動に期待したい。                               | 地元密着型の短期大学部として評価を頂けている点は、地域総合科学科としての本科教育活動が、地域の多様なニーズに応えられているものと判断する。引き続き、地元企業と地域産業の発展・振興に貢献できるように、情報集活動なども密に行いながら、教育活動を行っていく。その上で、多様化する学生ニーズに応えながら、カリキュラム、履修形態など、満足度を高められるよう、更なる改善に努めていく。 |
| (4)その他 評価：適切である<br><br>ボランティア活動において、演習やゼミナールでの活動をきっかけに、学外での活動や地域で開催される福祉イベントに複数の   | 実践的教育の理念のもとに、地域社会や組織における協働の体験的学習を重視する本科の教育方針と実践を評価頂いているものと判断する。2年という期間は、往々にして資格や就職試験の対策に傾倒させてしまうが、本科では、  |

学生が学外でのボランティア活動に参加（＝善意フコニステイバル・豊橋ハーフマラソン）しており、社会人としての基礎力また人間的な成長をめざす本学の目標に合致するものである。

ゼミナールでのプロジェクト活動を必修化し、ガイダンスや講義等で経験学習の効果に触れることで、ボランティア等の参加者も徐々に増えている状況である。引き続き、バランスの取れた状況を作り出せるようにカリキュラム等を検討していきたい。